

秋田県作業療法士会ニュース

きりたんぽ

Vol.42-No.3



□巻頭言

前衛と後衛、挑戦と覚悟

…社会医療法人明和会 中通リハビリテーション病院
原田 大河

□地域支援事業

～地域と作業療法と私～

【第1回】地域包括支援センター（行政）と関係づくりと私
…大曲中通病院 宮田 信悦

□職場紹介

…特定医療法人仁政会 杉山病院

リハビリテーション科 岡崎 冬美 五十嵐 瞳

□トピックス

元気があれば何でもできる！

スポーツをはじめ。スポーツからはじまる。

…障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

□みんなで語るべ～日々の楽しみ方～

【語り手】

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

前衛と後衛、挑戦と覚悟

社会医療法人明和会 中通リハビリテーション病院 原田 大河

コロナとの共存が当たり前になり、相変わらず物価高に悩まされ、熊による追い打ちを受けている昨今ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は今年度より、10年近く最前線で体を張ってきた地域支援事業部(旧地域包括ケアシステム推進委員会)を離れ、事務局長を務めることとなりました。これからは、会の運営のための後方支援をしながら、地域支援事業にはプレイヤーとして参戦していくこととなります。

地域支援事業部はいわば前衛職、ラグビーやサッカーではフォワードといわれるポジションだと感じています。対して事務局は後衛職、ラグビーやサッカーではバックスといわれるポジションに相当します。前衛職に求められるものは、瞬発力、突破力、野性の勘、そして何より体力で、私はラグビー部時代に、フォワードの中でもさらに最前列を務めていました。また、私が愛するMonster Hunter(モンハン)というゲームでも、大きな盾を持ってモンスターの攻撃を引き受ける武器種を愛用しています。ラグビーとモンハンの経験から、前衛職は目の前で起こる事象に素早く全力で対応しなければならないため、試合(狩り)の全容は見え、後衛職の指示を頼りに自分のやるべきことをやるものだと感じています。これは、県士会においても同様で、地域支援事業部は、今までに確立されていなかった地域リハというものを、手探りで形にしていくという役割を担っていたと考えます。

対して、後衛職に求められるものは、判断力、安定性、持久力と広い視野で前衛よりも責任の多いポジションです。これを私の経験しているスポーツとゲームに例えると、長靴ホッケーのゴリー(ゴールキーパー的なもの)Splatoon(スプラ)の長射程ブキになります。これらの共通点は、試合やほかの選手の動きを把握し、指示を出さなければならないこと、一つのミスが失点に直結するケースが多いこと、時には前衛職より体を張らなければならないことです。これを県士会に当てはめると、事務局長のやるべきことが見えてきます。各部局の動きを把握し、必要な支援をすること、会員が動きやすいように道を示すこと、それに加えていわゆる事務仕事を的確にこなしていくことが求められます。

そして上記の経験から、現時点での私の適性はおそらく前衛職です。後衛職に相当する事務局長という役割は、私にとって大きな挑戦となります。

さて、ここまで県士会というものをスポーツやゲームに例えてきたのは、私がこの秋田県作業療法士会というものを、一つのチームとして捉えているからです。現代日本が抱える課題に対する一つのアンサーである地域共生社会の実現のため、地域支援事業、認知症初期集中支援チーム、5歳児健診をはじめ、さまざまな取り組みに、私たちOTの力は必要不可欠です。しかし、一人のOTの手が届く範囲は、あまりに狭く、とても秋田県全体をフォローしきれません。県士会という組織を通じて、私たちが手を取ること、チームとしてならこの問題に立ち向かうことができるのではないのでしょうか。まずはできることから、少しでも今より手を伸ばしてみませんか。

ここまでを読み返して思いました。長い自己紹介だな、と。私の県士会に対する思いと覚悟をここに書き記し、退路を断ちましたので、こんな事務局長ですが、これからよろしくお願いします。



【第1回】地域包括支援センター(行政)と関係づくりと私

大曲中通病院 宮田 信悦

2015年に地域包括ケアシステムの構築のために、介護予防・日常生活支援総合事業・包括的支援事業・任意事業が改正され、各市町村において地域支援事業が展開されてきました。この間、秋田県作業療法士会においても2016年から地域支援事業で活躍できる人材を育成する研修会を毎年開催してきました。研修後のアンケートでは、実際にどのようなことを行っているのか知りたいという声を多く頂いていました。開始当初は、地域支援事業に関わっている会員が少なかったこともあり研修会においてご紹介してきました。しかし、改正後10年が経ち多くの市町村で地域支援事業に関わる会員が増えてきました。そこで、今回からリレー形式でどの市町村でどのような地域支援事業に関わっているかを皆さんにお伝えし、多くの方に興味を持って頂き地域支援事業を「我が事」として捉えてもらえれば幸いです。

今回は大仙市での活動を紹介します。当院では訪問型・通所型サービス・活動C型、地域リハビリテーション活動支援事業、自立支援型地域ケア会議、地域包括ケアシステム支援会議医療・介護連携部会の委員などの事業に参加しております。もちろん当初から多岐に渡る事業に関わっていたわけではなく、約10年の地域包括支援センター(以下、包括)との関わりの中で増えていきました。包括との関わりは2016年に挨拶を行ったことから始まります。当時は自立支援にリハ専門職が重要であるとの認識はされていたと思いますが、実際リハ専門職がどんなことができるのか分からないという時期だったと思います。



そのような状況でありましたが、包括からは大仙市の医療介護分野の多職種連携の会への参加を打診されました。まずは顔の見える関係を構築するために会議や研修会、その後の懇親会へ参加し関係づくりをしてきました。その後、徐々に包括や多職種からリハや自立支援の講演依頼を頂くようになり、2018年からは地域ケア会議へ参加するようになり包括の職員の方と顔を合わせる機会が増えていきました。

その頃から、日本作業療法士協会で作成した事例集の紹介や全国で行われている先進的な事業をお伝えしながら、新規事業としてご提案し開始の際には協力する姿勢をお伝えし続けてきました。また開始された事業についても、振り返りはもちろん修正案なども提案しながら包括と一緒に事業を見直ししてきたことで、事業同士の繋がりが出てきていると最近実感しています。

地域支援事業の成果が出るまでには10年程度かかると言われています。その前段として関係性構築が必要なため、地域支援事業に関わることはかなりの時間が必要と考えます。会社員としての本務をもちながらも、継続し関われる範囲で関わってきたためより時間がかかっているのかもしれませんが、それでも地域に作業療法士という職種がいるということを、包括や行政、地域住民の方に徐々に認識してもらっていると感じています。関係を継続しながら、さらに醸成を深め、身近な作業療法士を広げていければと思います。



職場紹介



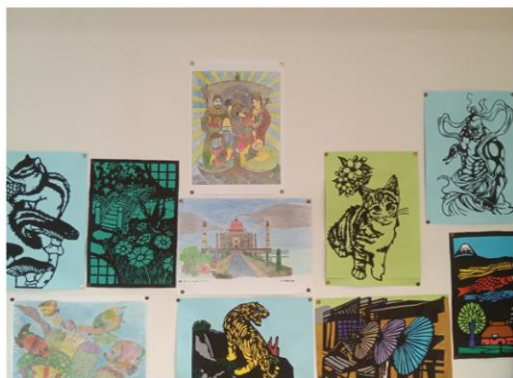
特定医療法人仁政会 杉山病院
リハビリテーション科 岡崎 冬美 五十嵐 瞳

当院は潟上市に位置し、「幸せに生きることへのお手伝い」を理念とした地域に根差した病院です。内科/精神科病棟を有しており、主に後者の認知症治療病棟と精神療養病棟を対象に作業療法を実施しています。リハビリテーション科には作業療法士6名、公認心理師1名が配属されています。ちなみに、当院はくるみん認定を受けており子育てサポートが得られる職場環境になっています。

認知症治療病棟では生活機能回復訓練の一部として作業療法を提供しています。生活歴を踏まえ、患者様が安心して笑顔で生活できるよう、個々の残存機能を活かせるよう、1人1人に合った活動を提供し、今後の生活を考え対応しています。1日のプログラムとしては、午前にはパラレルOTや小集団活動（少人数制で体操・風船バレーなどの身体活動等）、午後に集団レクリエーション（体操、ハンドマッサージ、茶話会等）を実施しています。また、排泄、食事など生活場面での介入や不穏、徘徊などBPSDへの対応、ベッドサイドでの身体リハビリや歩行など身体面での評価や介入も個人に合わせて適宜行っています。その他にも年間行事として病棟スタッフの協力も得ながら、中庭の花植え、納涼祭、クリスマス会などを実施し、皆さんで季節感を味わい、他者との交流機会や楽しみを持てる場を提供しています。

精神療養病棟60床には3名の作業療法士が配置され、入院および通院作業療法を担当しています。若年層から高齢者まで、対象となる疾患は統合失調症圏、気分障害圏、睡眠障害、神経症圏、発達障害、認知症など幅広いです。また、急性期～生活期が混合した病棟となっているため、集団を扱いながらも個々をアセスメントし、病期に合わせた柔軟な対応が求められます。プログラムは午前/午後約2時間実施され、パラレルで手芸や脳トレなど個々の希望や目的に合わせた内容、集団での介護予防体操、創作活動、患者様の9割が参加され皆さん楽しみにされている茶話会等があります。その他疾患別に依存症プログラムは心理師と共同で運営し、お花見、作品展等の外出プログラムは看護師や精神保健福祉士と連携しながら実施しています。対象者は多様ですがどのライフサイクルにおいてもその人らしい生活を送るための支援ができるよう励んでいます。

当院は来年（2026年）で開院50周年を迎えます。今年の開院記念行事では初の試みとなるアニマルセラピーが企画され、仔犬、仔猫の愛らしい姿に患者様の自発性が引きだされ、病院全体が一体となる瞬間がありました。



スポーツをはじめめる。 スポーツからはじまる。

社会福祉法人北杜 障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

こんにちは。障がい者支援施設ほくとの若狭利伸です。今回は、私が所属するスポーツ支援団体「Sporable（スポラブル）」についてご紹介します。Sporableは2019年に、秋田県内の医師・理学療法士・作業療法士、そして地域のボランティアが集まり誕生しました（当初は「Chain of Smiles Project」）。障害のある子どもたちやご家族の「やってみたい」をスポーツを通して応援したいという思いから生まれた団体で、スポーツを「競技」ではなく「出会い・つながり・広がり」を生むきっかけとして大切にしています。

これまで実施してきたスポーツは、野球、サッカー、ランニング、ヨガ、スケート、サーフィン、SUP、登山、ダンス、eスポーツなど多岐

にわたり、リスクが高く参加を諦めていたお子さんやご家族が安心して楽しめる環境づくりを心がけています。メンバー自身がプロの選手というわけではありませんが、経験者や指導者と丁寧に協働し、医療従事者が持つ専門的知識と熟練者の技術を掛け合わせることで、安全で豊かな体験を提供しています。医療・福祉の現場で培ってきた知識や経験を、現場に留めず地域にまで広げることができる——Sporableは、医療・福祉従事者のスキルを活かす場としても魅力的だと思います。

障害があることでスポーツの方法や楽しみ方が変わることはありますが、「やってみたい」「できるようになりたい」という気持ちは誰にとっても同じです。その気持ちに寄り添いながら方法を一緒に考え、挑戦を支えることで、子どもたちの“できること”は確実に広がっていきます。こうした思いを込めて、私たちは「スポーツをはじめめる。スポーツからはじまる。」

という理念を掲げています。

私自身、兄弟として重度の障害がある弟と育ち、家族で海へ行ったり山に登ったりといった体験がなかなか難しかった経験があります。そのため、活動の中で参加者から「楽しかった」という言葉を聞けると心から嬉しくなりますし、スポーツという共通言語がご家族同士をつないでいく場面に立ち会うたび、この活動の意義を改めて感じます。また、「スポーツからはじまる」のは参加者だけではなく、支援者側にも成長や気づきが生まれます。学生としてボランティアに参加したことをきっかけに理学療法士を志し、養成校へ進んだ方もおり、支援とは一方通行ではなく互いに育ち合う

関係であることを示してくれていると感じます。

お子さんに障害があるとき、将来への不安が大きくなることもあると思います。Sporableは、そんな時にそっと寄り添える存在でありたいと願っています。子どもたちの「次はこれを

やってみたい」、親御さんの「次は何をしようか」という前向きな気持ちが少しずつでも増えていくよう、これからも活動を続けていきます。この記事を読んでくださっているあなたも、ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか？

※活動の様子はnoteにも更新中です。
ぜひ、ご一読ください。



秋田県内のバラスポーツに関わる医療従事者が中心となって、障がいの壁を越えたスポーツの場をつくる



みんなと語るべ

～日々の楽しみ方～

語り手：秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター



私の日々の楽しみは、夜、子供の寝かしつけが終わった後にアイスを食べることです。

現在私は1歳娘の子育て中で、1～2時間の育児時短を頂いて皆さんに助けられながらも、日々目まぐるしく時間が過ぎていきます。忙しくも子の成長は毎日楽しみで、時間に追われながらも1日の終わりに食べるハーゲンダッツは私の至福の時間となっています。

最近ハマっていることはカフェ巡りです。おしゃれで可愛い内装や雰囲気癒されますし、ゆっくり過ごせるのが好きです！季節ごとの期間限定メニューも楽しみでつい頼んでしまいます。行ったことのないお店を開拓するのが好きなので気分転換にもぴったりです。機会があれば海外のカフェにも行ってみたいです！



大学卒業の際に知人からいただいたミニサボテンを育てています。はじめは小さかったサボテンも思いの外大きくなり、鉢を埋め尽くすほどの勢いです…！毎日の成長がささやかな癒やしとなっています。水やりは月に1～2回で十分なのですが、最近は日光不足で間延びしてきているのが心配です。無事に冬越しするべく、作戦を練っています。

R 7年度 秋田県リハビリテーション専門職協議会北部ブロックと秋田県 県北地区介護支援専門員協会の合同研修会

語りつくして お互いを知る (ワールドカフェ形式意見交換会)

2026年
日時 **1月24日(土)**
14:00-16:00 (受付 13:30~)

会場  秋田県北部老人福祉総合エリア
多目的ホール

対象 リハビリテーション専門職
介護支援専門員

お申込みはこちら⇒

お問い合わせ

☎0186-37-3511

(大湯リハビリ温泉病院 リハビリ室内 担当: PT 大田健太郎)



【テーマ】

- 1) 今の仕事をしていてよかった
と感じたこと
- 2) 今一番みんなに聞きたいこと
- 3) 連携が取れたらやりたいこと
- 4) こんな地域なら住みたい
など



(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

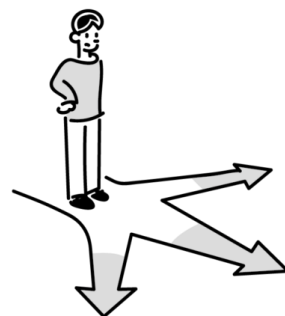
<http://www.sensyugishi.co.jp>

編集後記

2025年も残りわずかとなりましたが皆さんにとって今年はどうな年になったでしょうか。

自分は毎年この季節になると、もう今年も終わってしまうなーという寂しさともうすぐでスノーボードができるなーという嬉しさが入り混じって変な感覚になります。さらに自分にとって人生の節目となる年となりました。様々な感情が交錯する中で、一年を振り返りながら心の中で整理して、2026年を迎え入れる準備をしたいと考えているところです。

今年の冬も厳しくなる予想ですので、体調には気をつけていきましょう。皆さん、よいお年をお迎えください。





一般社団法人

秋田県作業療法士会

発 行：一般社団法人 秋田県作業療法士会

会 長：川野辺 穰

編 集：一般社団法人 秋田県作業療法士会 広報誌編集部

〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱16-2

大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則

TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483

e-mail: akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

事務局：〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田25-2 セジュールエスト 105号

TEL/FAX 018-837-0552

e-mail: akita_ot@akita-ot.jp.org

印 刷：川嶋印刷株式会社